

## 第11回ボランティア学習会

### わかり易かった講義

#### 五十名参加

七月九日十時から小倉第一病院多目的ホールで、通院介護センター「さわやか」の第11回「ボランティア学習会」が開催されました。

参加者は五十名でした。「学習会」は竹内副会長の開会の挨拶で始まり、

江頭会長は、通院介護事業が全国で二四ヶ所になり、少しずつ進展していると報告しました。

また、北九州では、通院事業とホームヘルプ事業が見事に連携しあい、透析患者に大いに役立っていると挨拶しました。

来賓挨拶には、「ステップ福岡真砂会長が立たれ、「ステップ福岡」の現状と将来への展望を述べられました。

学習会にはいり、小倉第一病院医療ソーシャルワーカー前田公江氏より講演がありました。

透析治療による、合併症の問題を具体的に話されました。骨粗鬆症など、骨異常発症で関節や骨が折れやすくなる

アミロイドの沈着による、関節障害、透析治療後の不均衡症候群での血圧の低下、嘔吐など、透析によって色々な症状があることを説明しました。

更に、透析患者の心理状態に関する説明、患者への接し

### 初めての体験

#### あっといっ間の五時間

「さわやか」事務局員 高原 由美

真夏のような天気の中、多数のボランティアさん、「ステップ福岡」の真砂会長に出席いただき、うれしく思いました。

午前中は小倉第一病院の医療ソーシャルワーカーの前田公江さんに講演いただきました。

透析の内容や、患者の心理状態、患者への接し方、車中での話題作りなどの確かかつ判りやすくアドバイスいただき新人の私にとっては、すごく

方など具体的な対応を分かり易く話されました。

事前アンケートによる質問への回答もありました。

質問の中で出された問題として、「送迎中に穿針部位からの出血」したらどうするか

「送迎中に失禁」をされたらどう対応するかの二つの問題が、残された課題になりました。

午後は、小倉第一病院理学療法士藤原衣里氏の話があり杖、車椅子、固定ベルトを使

用して、各ボランティアさんに体験してもらいながら、介助の方法を習いました。

介護ボランティア歴十六年の小浜さんが実践の中で得た裏話を具体的に実施して見せました。

どちらの講演も、透析施設に従事している人の話なので話が具体的で大変理解しやすい内容でした。

最後、竹内副会長の閉会の挨拶があり、学習会は幕を閉じました。

## 「ほほえみ佐世保」

### 「さわやか」を視察

7月1日送迎開始

6月16日9時から15時まで「ほほえみ佐世保」の役員が「さわやか」八幡に視察に来られました。

「ほほえみ佐世保」は、長崎県腎臓病連絡協議会が、佐世保地区に通院介護支援センターを作る目的で結成されました。

4月1日から長崎市では「ほほえみ長崎」を創設し、実際に通院介護支援事業を行っています。

「さわやか」には、佐世保市腎友会ブロック長の晦日（みそか）敏弘氏とコーディネーターの岡睦子氏が訪問されました。

西氏は早朝から熱心に通院介護支援事業にたいする問題点を質問されました。

四年間の実績に基づいての経験を江頭会長と山田コーディネーターが応対し話しました。

9時30分からは、「さわやか」号で利用者の迎える状況を視察しました。利用者宅には、「いきいき

北九州」派遣のヘルパーさんが待機されていて、家の中から車まで身体介護をしました。乗車した利用者を病院まで送っていききました。

通院介護とホームヘルプがみごとにマッチしているのが目の当たりに見学出来ました。江頭会長は「通院支援事業は、あくまでもボランティア活動なので、必ずしも週3回パフェクトを目指す、出来るところから、徐々にしてい

かないと、無理をしたら長続きしない」と強調していました。

「ほほえみ佐世保」は7月1日から送迎を開始する予定です。設立総会は7月23日の予定です。

「ほほえみ佐世保」の順調な発展を願いながら、両名と別れました。

尚、7月23日に、サンライフ佐世保にて、「ほほえみ佐世保」の設立総会があり、「さわやか」から江頭会長が列席します。